研究部だより

令和6年7月発行　ＮＯ．５

研究主題
学びたい気持ちを高め、夢中になって取り組む姿を目指す授業づくり
ーキャリア・パスポート「未来へのスケッチ」の活用を通してー

高等部　学部授業研究会実施

高等部2年の職業科で学部授業研究会が行われました。今回は、授業研究会の様子についてお伝えします。

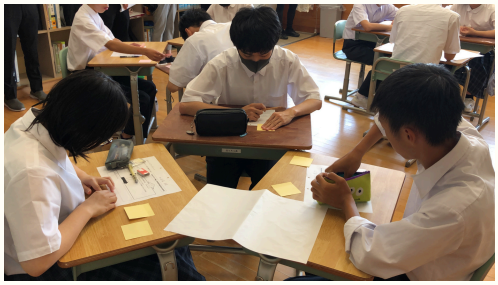
高等部２年　Ⅰ期現場実習事後学習 ～自分の成果と課題～

＜未来へのスケッチ×授業づくりのつながり＞

本人の夢や目指す姿を周知し「未来へのスケッチ」の目標を参考にしながら、現場実習の個人目標に取り入れた。今回の授業では、現場実習の振り返りや評価を基に、成果と課題を本人と確認、評価し合うことで課題テーマの設定につながった。２学期の目標の立案に向け、振り返りの際は、目標の達成だけでなく「できるようになるために」という課題を前向きに捉える視点で個の課題を認識させていく。

＜授業者のしかけ＞

安心して意見を伝え合える小グループの編成
～経験を言語化にして～

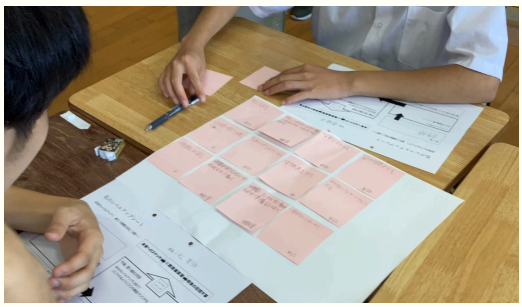


＜生徒の様子＞

・３人の小グループを編成したことで、自分の考えや意見に対し自信をもって発言し、積極的に発言し合ったり、相手の意見を尊重したりできた。現場実習、学校生活など、普段の経験を基にして意見を考え発言することによって、理由を添えて相手に伝え合う姿も見られた。

＜授業者のしかけ＞

可視化できる付箋紙の活用
～KJ法の活用～

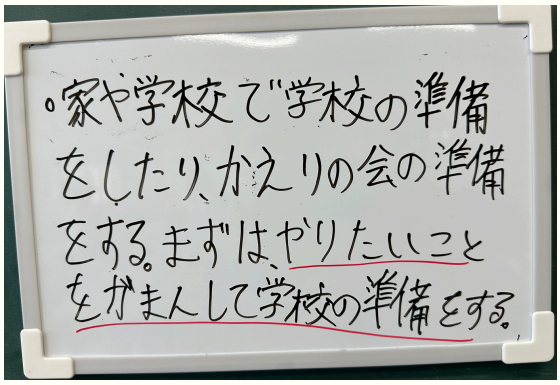


＜生徒の様子＞

・自分の意見を付箋紙に記入して意見交換したり、全員の意見交換で付箋紙を入れ替えて見合ったりしたことで、今後自分が挑戦したい取り組みについて、友達の意見を参考にして取り入れるなど、全員の意見を共有できた。

＜授業者のしかけ＞

振り返りと今後の活動への意欲付け
～「挑戦」する意欲へ～

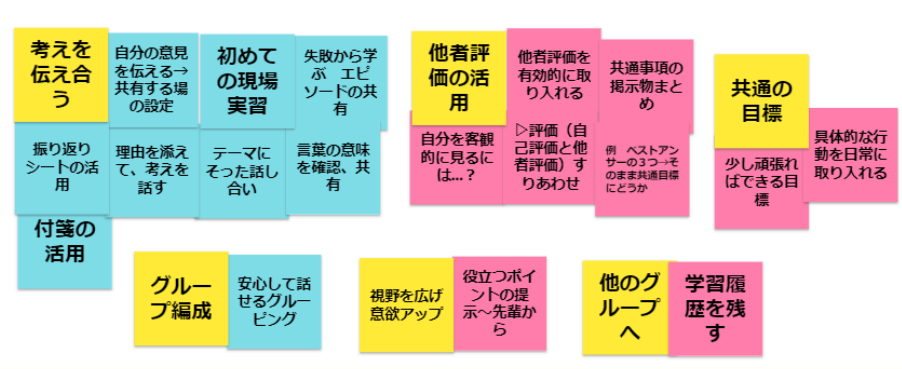


＜生徒の様子＞

・テーマを理解し今後取り組む活動に対して意識をもって学習活動に取り組んでいたか、テーマに対して自分事として考えて改善していこうとしたかが評価できるよう、今後挑戦したいことを発表するように設定した。友達の意見を参考にしながら自分にできそうなことを考え、発表する姿が見られた。

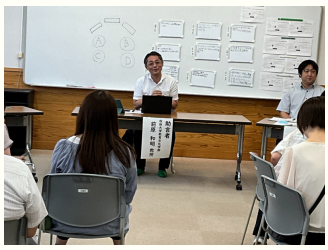
研究会の協議から

自己理解を深め、課題解決に向けて意欲を引き出す手立てや工夫



【協議で話題になった主な内容】
- 課題や不得意なことに向き合う勇気が大切。
- 失敗や課題を見付け、受け止めたことが成果ではないか。
- 学校でできることは家庭や職場でもできることを意識させていた。
- 話が苦手な生徒も付箋紙で意見を出していた。

【今後に向けて】
- グループの話合いで頑張るべき共通の目標を考えるとよいのではないか。
- 先輩からアドバイスをもらうなど、考える視野を広げ、学習意欲の向上を図りたい。
- 学習履歴を残し、掲示することで他グループにも波及していければよい。
- いかに自分自身を知っていくか。実体験から自己理解につなげたい。

講評　秋田大学教育文化学部　教授　前原　和明先生

【講評】
- 評価を否定的に捉えるとマイナス思考に陥ってしまいがち。自己理解をする際に、弱いところや弱点だけでなく、次につながるように共有、自分の強みや自己有用感につながっていくことが大切。
- 自己理解を考えるときも、知的障害の障害特性を考えて整理して対応することが必要。概念化が難しい子どもにどうカバーするのか、記憶の問題で目標を維持できない場合にどう対処していくのか。基本を大事にすることが応用につながる。
- 就職をする際に、合理的配慮が重要と言われる。合理的配慮は職場にお願いすることではないし、環境整備することでもない。個人が会社の人との対話の中で、本人が必要な配慮と会社ができることを調整しながら考えていくもの。合理的調整。支援があってもいいが、きちんと伝えることが必要。
- 自己理解も合理的配慮につなげていく。望ましい自己理解を分からせるだけでなく、助けを求められるのも大事な自己理解。自己理解の定義や捉えも考える必要がある。いつまでに自己理解をするのか、完璧な自己理解が卒業までにできるのか。自分自身の課題を認めることに力点を置くのではなく、配慮をどのように使っていくのか、自分でできるようになっていく、相手に助けを求めて使えるなど、使いこなす、役立てるという側面で自己理解ができるようになればよい。
- 自分自身を認めていなくても使えるという自己理解の達成の仕方もあるのかもしれない。ゴールに向けて本人の主体性をどのように引き出していくのかが大切なので、自分の目標や未来をもとに、どのように今を見るのか、スケッチしていくのかを授業の中で支えていければよい。
- 時間は就労に向けて大切だが、就労だけでなく、生活を支える重要な側面である。働きながら暮らす、暮らしながら働くも含め、広いテーマになっているのがよい。
- この授業は目標としての対処を探す内容だった。今回は、時計を見る、計画を立てるなど。一方、いつどこで使うのか、実行可能性、続けられるのか、本人はメリットを感じられるか等の課題もある。対処から自己理解へというプロセスを考える際に、考えた対処を実習の体験と具体的につなぐ、どのように実践していくのかが重要。もう一つ、対処を探すための方法を学ぶことが大切で、社会参加のために汎用性の高い大事なスキル。同級生や同僚と協力する相談するなど、社会で役立つスキルを学ぶことは大事。一人で悩むのではなく、誰かに助けを求めることは有効。次の自己理解や成長につながっていく。今後、具体的な展開につながっていくことを期待している。